



幸齡社会

人生これから！ シニア情報館



シニアライフアドバイザー

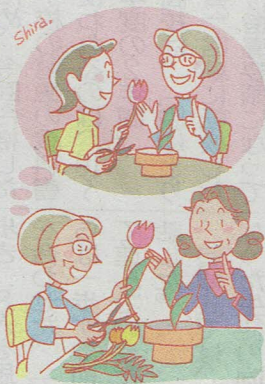
松本すみ子

春は学び始めの季節ですが、「学び」は若者だけのものではありません。カルチャーセンター等で興味のある新しい講座を見つけ、4月の開講を心待ちにしている人もいます。こんな知人もいます。講座を申し込みに行くと受付で、ほかの能面講座のチラシを目にし、即座に受講を変更。今では講師

学び始めの春

として活躍中です。学習にも出合いがあるようですね。最近は大学での動きも見逃せません。オープンカレッジなどと称した講座を設けて、社会人やシニア世代の受講を積極的に受け入れています。先日、別の知人から「立教セカンドステージ大学への入学が決まった」との連絡が届きました。同大学は、シニア世代が「学び直し」「再チャレンジ」を目指すため、生涯学習の場を提供するのが目的。知人は期待で胸いっぱいのです。向様に、シニア世代に向けた学部や講座を設けている大学には、創価大学、多摩大学、川村

アウトプットも考えよう



学園女子大学、大妻女子大学、平成国際大学などがあります。シニアの生涯学習に対する意欲は旺盛なので、この傾向は今後も続くでしょう。少子高齢社会の時代は、大学に新たな役割が求められているのです。では、リタイアしたシニアは学んだことを、どう生かすのが

いいのでしょうか。『学んで満足』だけでなく、人に伝える、つまり、アウトプットすることが大事になるでしょう。

シニアの学びには、これまでの経験や知恵も加わります。これは貴重な「宝」であり、使わないのはもったいないこと。

ただ、言葉でも文字でも、人に伝えることは意外と難しく、自分では理解している

も、うまく説明できないことがあります。

でも、伝えようとするだけで学びは一層深まり、コミュニケーション能力も自然と向上すると考えれば、一歩前へ踏み出せるのではないのでしょうか。